

復旧は住民の切実な願い

JR九州の責任で早期の復旧を 被災した市町村に負担を求めめるな

大谷市議は3月議会日本共産党日田市議団を代表し、JR九州の日田彦山線の復旧や河川改修、内水氾濫対策など住民の切実な要望を取り上げ市の考え方を質問しました。

公共交通計画書にのせた」と答弁しました。

これまで日田彦山線の復旧は展望が見えませんでした。だが、青柳社長は3月1日「鉄道での復旧を前提に福岡県、大分県と協議したい」と述べました。

大谷市議は「鉄道は皆の心の支えなんです」という住民の声を紹介し、市長の今年の市政執行の基本方針の中の復旧・復興の取組みに、日田彦山線の早期復旧を求める記載が無いことに対して、どう位置付けているのかを質問しました。

大谷市議は「JR九州は平成29年度の3四半期決算では、鉄道部門は社長も黒字と述べている。国会で答弁した政府参考人も黒字と述べていることを指摘し、JR九州の責任で復旧を求めることが大事ではないか」と質問しました。

原田市長は「市民にとって必要不可欠で大きな交通手段であると認識している」「復旧復興の計画書と地域

原田市長は「基本的にはJRが単独で復旧する事が大前提であろうと思う」と述べ、復旧した後の地域活

性化など協議をする旨を答弁しました。

大谷市議は「東峰村や添田町、日田市も大きな財政支出をしながら災害復旧に全力を挙げている。日田彦山線の復旧で被災3市町村に負担を求めることは問題」と重ねてJRの責任で復旧を求めて行くよう要望した。



←12月20日、日本共産党国会調査団が大鶴地区の鉄道被災箇所を視察。21日にJRに要望。左から真島前衆議員、田村衆議員、仁比、宮本、山添参議員、同行の日隈、大谷市議



住宅が浸水被害にあう地域 不安に 대응する個別の対策を

大谷市議は、家屋の浸水被害の深刻な7地区に対して、雨水対策計画の説明と住民の不安解消のため個別対策を求めました。

市は内水氾濫の対策として雨水対策基本計画を見直しています。「住民の不安を解消する対策になるのか」と大谷市議は質問しました。

上下水道局長は「①時間当たりの降雨強度をこれまでの64・4ミリから10年確率65・7ミリに引き上げて雨水計画を推進する②豆田町、丸の内、上手町、丸山町、

吹上町、北友田1丁目、玉川3丁目の7地区を新たに重点対策地区に設定する③ハード対策で雨水幹路の整備、ソフト対策で内水ハザードマップの作成、各戸の雨水貯留施設の補助制度を考

上下水道局長は「豪雨時の時間当たり87・5ミリの対策が出来ればいいが現実的ではない。貯留施設などを設置し、あくまでも浸水被害の軽減を図っていく。ハザードマップを作るので住民に周知する」と答弁しました。



大谷市議は「7箇所の重